

授業科目	基礎解剖学				
担当者	永瀬 佳孝(実務経験者)				
実務経験者の概要	歯科医師としての実務経験があり、大阪大学、北海道医療大学、森ノ宮医療大学、宝塚医療大学での解剖学、神経解剖学、神経生理学の研究を実施				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を覚えている。
運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作る。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論、基礎医学を学ぶ意味
1. 細胞・組織・器官・系 2. 肉眼解剖と組織学 3. 系統解剖と局所解剖学 4. 発生学 5. 体表解剖学 6. 人体の正常・異常・個体差 7. 解剖学的姿勢 8. 基本的な解剖学用語
- 第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髄 3. 体腔
- 第3回 関節靭帯学総論
1. 線維性連結 2. 軟骨性連結 3. 滑膜性連結 4. 関節の一般構造(関節包、滑膜、滑液)
5. 関節の特殊構造(関節円板、関節半月、関節靭帯、関節唇)
- 第4回 筋学総論
1. 筋の分類(平滑筋と横紋筋) 2. 随意筋と不随意筋 3. 骨格筋の基本形態 4. 腱と腱膜 5. 筋の附着(起始と停止) 6. 筋の作用(屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋) 7. 主動筋、拮抗筋、協力筋 8. 骨格筋の補助装置(筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘)
- 第5回 神経学総論1
1. 中枢神経系と末梢神経系 2. 求心性神経と遠心性神経 3. 白質と灰白質 4. 神経細胞(神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘) 5. 神経線維と神経
- 第6回 神経学総論2
1. 脊髄の白質と灰白質(前柱、後柱、前索、側索、後索) 2. 脊髄の区分(頸髄～尾髄) 3. 脊髄髄節と脊髄神経(髄節、前根と後根、前枝と後枝)
- 第7回 組織および胚葉
1. 組織(上皮組織、支持組織) 2. 胚葉(外胚葉、中胚葉、内胚葉) 3. 三層性胚盤と器官・組織形成
- 第8回 循環器系総論
1. 血管系の役割 2. 血管(動脈・毛細血管・静脈の構造) 3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血 4. 吻合 5. 終動脈
- 第9回 心臓
1. 心筋細胞 2. 心臓の位置 3. 心臓を包む膜 4. 心臓の内腔(心房と心室) 5. 肺循環と体循環
- 第10回 心臓(続き)
1. 房室弁(腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁) 2. 動脈弁(肺動脈弁・大動脈弁) 3. 心臓の血管(冠状動脈、冠状静脈洞)
- 第11回 動脈系
1. 大動脈 2. 大動脈弓(腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈) 2. 頭頸部に分布する動脈 3. 上肢帯と上肢に分布する動脈 4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

第12回 動脈系 (続き)

1. 脳の動脈

第13回 胎児循環

1. 胎盤
 2. 臍静脈と臍動脈
 3. 静脈管(アランチウス管)
 4. 卵円孔
 5. 動脈管(ボタロー管)
- リンパ系
1. リンパ管とリンパ節
 2. 胸管
 3. 右リンパ本幹
 4. 脾臓

第14回 呼吸器系

1. 鼻腔
2. 咽頭と喉頭
3. 気管・気管支
4. 肺・胸膜
5. 呼吸筋

第15回 消化器系

1. 口腔
2. 咽頭
3. 食道
4. 胃・腸管

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験) 60%】 毎回授業ノートを提出40%: 未提出あるいは不完全なものの提出は減点の対象(一回につき, -5点)

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習: 指定した教科書の範囲を手書きでノートにまとめてくること。(2時間)

復習: 授業の終わりに指定した事項を覚えること。(2時間)

■ 教科書

書名: 解剖学 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)

著者名: 野村 巖 (編)

出版社: 医学書院 (ISBN-13: 978-4260020084)

■ 参考図書

■ 留意事項

体調管理も能力に含まれるので、遅刻・欠席には注意すること。

呼名している時間があったいないので、授業終了時のノート提出により出席とする。

■ 講義受講にあたって

臨床実習において学習不十分を実感する学生が多いので、解剖学・生理学はすべての基本となるので、しっかり勉強すること。